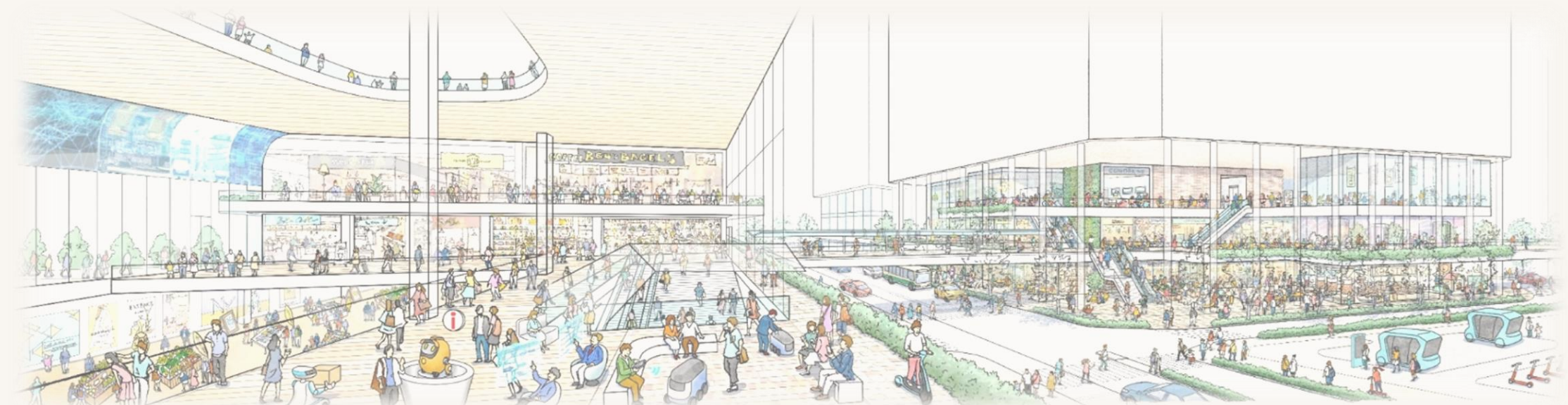


新大阪駅周辺地域のまちづくり

世界有数の広域交通ターミナルのまちづくりの実現



新大阪駅周辺地域



大阪で唯一新幹線駅を有し、関西の玄関口である **新大阪 駅エリア**
 地域の中心拠点であり、風情ある空間が残る **十三 駅エリア、淡路 駅エリア**

リニア中央新幹線や北陸新幹線の全線開業等の新たなインパクトや社会状況の変化に備え“新大阪駅エリア”を中心に 近接する“十三駅エリア”、“淡路駅エリア”の3つのエリアを一体と捉えた **新大阪駅周辺地域** の20年から30年先を見据えた新たなまちづくりを進めている。

▶ めざすべき大きな方向性 世界有数の広域交通ターミナルのまちづくりの実現

圧倒的な広域交通アクセスの良さを最大限に活かして、国内外から集まる人の流れをまちに広げることで、大阪の国際都市化のフラグシップとなり、関西、日本の発展を支える。

▶ 担うべき役割と導入すべき機能

役割①

交流促進機能をもつ
“スーパーメガリージョンの西の拠点”

ビジネス・産業、観光・文化・エンターテインメントなど、国内外から人が集まり、交流を促進する機能を導入することで、新しい価値を生み出し、日本の成長を支える役割を担う。

役割②

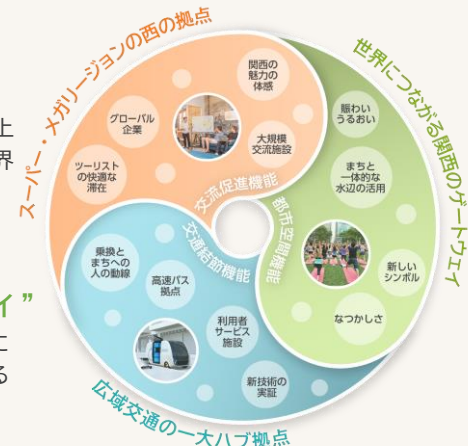
交通結節機能が充実した
“広域交通の一大ハブ拠点”

多様な交通サービスの提供や乗り換え利便性の向上により、日本国内の拠点とアジアを中心とする世界の拠点をつなぐ人の結節点としての役割を担う。

役割③

都市空間機能があふれる
“世界につながる関西のゲートウェイ”

世界から訪れる多くの人を迎え入れる国際都市にふさわしい高い魅力を持った都市空間を形成することで、関西のゲートウェイとしての役割を担う。



▶ 関連する周辺のプロジェクトと想定スケジュール

北陸新幹線や淀川左岸線などの広域インフラ整備のほか、十三船着き場や阪急淡路駅付近の鉄道の高架化など、時間軸が異なるいくつものプロジェクトが進んでいく。これらのプロジェクトの効果を活かしながら、新たなまちづくりを段階的に進めていく。

2022年

2025年

2040年～

- 大阪・関西万博
- 大阪都市再生環状道路 淀川左岸線2期
- 阪急高架化 歌島豊里線
- 大阪都市再生環状道路 淀川左岸線延伸部
- 柴島浄水場ダウンサイジング

- リニア中央新幹線
- 北陸新幹線
- 新大阪連絡線

世界有数の広域交通ターミナルのまちづくりの実現

段階的なまちづくり

新大阪駅エリアにおける民間都市開発の機運

新大阪駅エリア



現在の東海道・山陽新幹線、JR在来線、Osaka Metroに加え、今後、北陸新幹線、新大阪連絡線の新駅が想定されることや、淀川左岸線の整備により高速道路へのアクセス性が向上することなどにより、広域交通の利便性が一層高まることとなる。また、将来的にはリニア中央新幹線が大阪まで整備される計画となっている。

新大阪駅周辺地域のまちづくりをけん引するリーディング拠点として、駅とまちが一体となり質の高い機能の集積と居心地がよく歩きたくなるまちなかを形成し、エリアの価値の向上を図る。

“国内外から多くの人が集まる機会を捉えて、大規模交流施設などの広域の交流を促進する機能を導入し、**新しい価値を生み出す**”



“人中心の空間を備えた多層的な広域交通結節施設や魅力的な低層部などにより、**広域の人の流れをまちに広げる**”



“鉄道や幹線道路で分かれた6ブロックにおいて、それぞれの特色をもった多様な機能により、滞在する人が**居心地良く過ごせる空間を形成する**”



▶ 新大阪駅エリアの現況（6ブロック）



大規模なオフィスが集積し、ホテルや商業施設が立地



ホテルや専門学校、オフィスが立地し、北側は居住機能も立地



駅近くはホテルが立地し、北側は市営住宅等の居住機能が立地



駅東口広場近くには比較的大規模なホテルやオフィスが立地



交通機能中心の駅前広場があり、大規模なホテルやオフィスが立地



幹線道路沿いにオフィスが集積し、ホテルや飲食店が立地

▶ 駅とまちが一体となった空間づくり

人の流れをまちに広げる 歩行者空間

国内外から集まる多くの人をまちにを広げるために、駅や駅周辺の広場と民間都市開発の低層部を一体的な空間として動線を確保するとともに、賑わいや潤いのある連続的な空間形成を図る。

駅とまちをつなぐ 広域交通結節施設

鉄道や道路とまちをつなぐ役割を担う広域交通結節施設は、利便性、円滑性、快適性を高めていくために、歩行者・自動車等交通・利用者サービスの3空間を適切に配置する。

まちの価値を高める 民間都市開発

大規模な建替え、土地利用転換などのまとまりのある民間都市開発にあわせて、質の高い機能の導入や、魅力的な低層部を創出することなどにより、まちの価値を高める。

